

年間授業計画

科 目 名		ネットワーク活用		単位数	3 単位	学年・学科		2 学年	情報処理科	展 開	必修
教科書名		教科書番号（出版社） 教科書名 商業 7 4 9 （実教出版） ネットワーク活用				副教材名					
科目の目標			・商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるインターネットの活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。								
学習内容と進め方			・実習や演習を通して学習を進める。 コンテンツの制作実習では、図形、画像及び音声などの編集に各種アプリケーションソフトを使用し、その操作方法について学習する。 ウェブページの作成では、デザインを含め、広告・広報についての知識、技術について学習する。								
学 習 の 留 意 点			・図形、画像及び音声などの編集作業に使用する各種アプリケーションソフトの操作方法について意欲的に取り組むこと。 ・ウェブページや広告、広報関連のデザインは、見る人の立場に立った制作に心がけ、見やすく工夫を凝らした作品制作を心がけること。								
月	単 元	予定 時数	具体的な学習内容	評価の観点			備考（評価項目）				
				1	2	3					
4	1章 情報通信技術の進歩 とビジネス 1 節 ICTにより創造される新しいビジネス 2 節 個人情報と知的財産の保護 3 節 関連法規とガイドライン	6	情報通信技術の進歩に伴いビジネスの形態や組織内におけるビジネスの進め方が変化していることを学び、情報通信ネットワークをビジネスに活用することの重要性を理解する。	○	○	○	情報通信技術の進歩と、そのことによって何ができるようになったかを理解しているか。 情報通信技術の進歩とビジネスの形態の変化に関連付けて説明できるか。 IoT、ビッグデータ、AIなどの新しい利用技術に興味を持ち、これらを生かした新たなビジネスについて考察しようとしているか。 個人情報や知的財産の概要と、それを保護することの重要性を理解している。 情報通信技術を活用する際に留意すべき個人情報や知的財産の取り扱い方を具体的事例で考察し、説明することができる。				
5			インターネットを活用したビジネスを展開する際に留意すべき個人情報や知的財産の保護の概要を学び、その重要性を理解する。	○	○	○		ビジネスに情報通信技術を活用する際を守るべき法規やガイドラインの概要と、その必要性を理解している。 情報セキュリティや電子商取引に関する法規やガイドラインの必要性を、情報通信技術を活用する際の具体的な課題と関連付けて考察し、説明することができる。			
			インターネットを活用したビジネスに関する法規やガイドラインの概要を学び、その必要性を理解する。	○	○	○					
6	2章 情報コンテンツの制作 1 節 図形と静止画 2 節 音声と動画	7	図形と静止画の情報コンテンツについて、利用方法や表現方法などの基礎的な知識を理解するとともに、それらを作成・編集するための基本的な技術を身につける。	○	○	○	図形と静止画の情報コンテンツについて、主体的に取り組み、利用方法や表現方法などの基礎的な知識を理解し、それらを作成・編集するための基本的な技術を身につけることができたか。				
			音声と動画の情報コンテンツについて、利用方法や表現方法などの基礎的な知識を理解するとともに、それらを作成・編集するための基本的な技術を身につける。	○	○	○		音声と動画の情報コンテンツについて、主体的に取り組み、利用方法や表現方法などの基礎的な知識を理解し、それらを作成・編集するための基本的な技術を身につけることができたか。			
7	3章 企業情報の発信と Webデザイン 1 節 Webページの制作と デザイン	5	Webページの制作とデザインについて理解するとともに、一般的なWebページ制作手順を理解する。 Webページ制作について必要な基本的な知識と技術を身に付ける。	○	○	○	Webページの制作について理解するとともに、企業情報の発信について有用なWebサイトおよびWebページを考えることができたか。Webページ制作するための知識と技術を身に付けるとともに、企業をロゴマークとして適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。				
8			3章 企業情報の発信と Webデザイン 2 節 Webページ制作の基礎	タグの直接入力による基本的なWebページ制作のための知識と技術を身に付ける。	○	○		○	基本的なHTMLのタグについて理解し、企業情報の発信について有用なWebサイトを作成する技術を身に付けることができたか。 CSSとJavaScriptを用いて、目的に応じた適切なWebページを制作する知識と技術を身に付ける。		
	CSSとJavaScriptを用いて、目的に応じた適切なWebページを制作する知識と技術を身に付ける。	○		○	○						
9	期末考査		11								
10	3 節 Webページ制作の応用	7	CMSを利用する意義や利点を理解するとともに適切に用いて、Webサイト構築をする技術を身に付ける。CMSを用いて、目的に応じた適切なWebサイトを作成する知識と技術を身に付ける。	○	○	○	CMSの仕組みや利用する利点を理解するとともに適切に用いてWebサイトを構築する技術を身に付けることができたか。 CMSを効果的に用いて企業にとって情報の発信に有用なWebサイトとして適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。				
11	4章 インターネットと 情報セキュリティ 1 節 インターネットのしくみ 2 節 ハードウェアとソフトウェアの導入 3 節 情報セキュリティの 確保		インターネットの仕組み、ビジネスにおいてインターネットを活用する利点及びインターネットサービスプロバイダの役割と業務について理解する。 ビジネスにおいてインターネットを活用するために必要なハードウェアとソフトウェアの種類と機能及びコンピュータをインターネットに接続する手続と方法について理解する。	○	○	○		インターネットを活用するために必要なハードウェアとソフトウェアの種類と機能を理解し、コンピュータをインターネットに接続する手続と方法について、企業活動の改善に対する要求に基づいて適切な環境を構築するために、組織の一員として、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。インターネットを活用する際の情報セキュリティの確保について自ら学び、実務に即して理解するとともに、企業における具体的な事例と関連付け、組織の一員として、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。			
			ビジネスにおいてインターネットを活用する際の情報セキュリティの確保について、企業における具体的な事例と関連付けて理解する	○	○	○					
1	5章 電子商取引とビジネス 1 節 ネットワークを用いた ビジネスと電子決済 2 節 電子商取引サイトの 開店準備 3 節 Webページ制作と 集客方法 4 節 ビジネスの創造	6	電子商取引の意義や役割について理解する。 企業間取引、企業対消費者間の商取引について学習し、情報通信ネットワークを活用したビジネスについて理解する。	○	○	○	ネットワークを用いたビジネスの方法を理解することができたか。企業間取引、企業対消費者間の商取引における契約方法について理解することができたか。 電子決済のしくみ、決済方法についての手順や内容について理解することができたか。 電子商取引のしくみや開発に興味を持ち、電子商取引開設のための手順を理解することができたか。また、店舗運営を行うための基礎的な知識について理解することができたか。 実習に積極的に取り組み、電子商取引を行うためのシステム構築方法を理解することができたか。また、環境に適したソフトウェアを用いて、電子商取引サイトを構築する技法を習得することができたか。				
代金決済方法について電子的データの交換を行う電子決済のしくみを習得する。			○	○	○						
電子商取引サイト開業に必要な手順を理解させるとともに、店舗運営を行うための基礎的な知識を習得する			○	○	○						
電子商取引を行うためのシステム構築方法を理解させるとともに、Webページ作成ソフトウェアやフリーソフトウェアを使って構築する技法を習得する。			○	○	○						
2		8	インターネットを活用したビジネスの動向や展望について理解し、新たなビジネスの創造について進化するAIの活用方法について習得する。	○	○	○	インターネットを活用した新たなビジネスモデルについて理解することができたか。				
3		5									
評価方法		(1) 評価の観点は下記の表のとおりとする。 (2) 具体的には定期考査や単元テスト、実習問題、作品評価、学習活動への参加の仕方や態度から評価する。									
評価の観点	観点	趣旨									
	1. 知識・技術	ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 何ができるようになるか									
	2. 思考・判断・表現	ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わるものとして科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしているか。何ができるようになるか									
	3. 主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。どのように学ぶか									
評価基準	1. 知識・技能	A 情報通信ネットワークの知識について、実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 B 情報通信ネットワークの知識について、実務に即して理解するとともに、関連する技術を概ね身に付けている。 C 情報通信ネットワークの知識について、理解できていない。									
	2. 思考・判断・表現	A 情報通信ネットワークとビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠にもとづいて課題への対応策を考察することができる。 B 情報通信ネットワークとビジネスに関する課題を発見し、課題への対応策を考察することができる。 C 情報通信ネットワークとビジネスに関する課題を発見し、課題への対応策を考察することができない。									
	3. 主体的に学習に取り組む態度	A 情報通信ネットワークとビジネスとの関わりについて、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。 B 情報通信ネットワークとビジネスとの関わりについて、主体的かつ協働的に取り組むことができる。 C 情報通信ネットワークとビジネスとの関わりについて、主体的かつ協働的に取り組む努力が必要である。									